

第4回「弥富市地域公共交通活性化協議会」 議事録

平成 24年 3月 29日 (木)

時間 午後 2時 00分から

場所 弥富市 図書館視聴覚室

○議 事

議長 (山崎先生)	<ul style="list-style-type: none"> ・ただ今から、平成23年度 第4回弥富市地域公共交通活性化協議会を開催する。
服部市長	<ul style="list-style-type: none"> ・市長挨拶
事務局	<p>○資料の確認</p> <p>資料1 : 無料お試し乗車券配布結果</p> <p>資料2 : 平成24年度弥富市地域公共交通活性化協議会 事業計画 (案)</p> <p>資料3 : 平成24年度弥富市地域公共交通活性化協議会 予算 (案)</p> <p>資料4 : 改正時刻表</p>
議長 (山崎先生)	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、議題に入る。事務局より、議題(1) 無料お試し乗車券配布結果について説明していただく。
事務局 (横江)	<p>○資料1 説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな利用者の掘り起こしを主な目的とし、きんちゃんバスに乗ったことの無い人に一度利用していただき、利用してもらうきっかけとなるよう実施した。 ・期間は、1月、2月の2ヶ月間で、昨年12月下旬に広報やとみ1月号と一緒に市内全世帯と1月の成人式において、新成人に配布。また、広報やとみ2月号にて周知も行った。 <p>1. 無料お試し乗車券の利用状況について。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(1) 月別利用状況 期間内の無料お試し乗車券の利用は1月に430枚、2月に897枚の合計1,327枚の利用があり、平日・休日ともに1月よりも2月の利用の方が多くなっている。 ・平日では南部ルートでの利用が最も多い。休日では北部ルートの利用が最も多い。 ・(2) 曜日別利用状況 どのルートも水曜日の無料お試し乗車券の利用が最も多く、次いで金曜日の利用が多い。 ・日曜日・祝日の使用は少ない。 <p>2. アンケートの集計結果について。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(1) 年齢層について。半数以上が60代、70代の高齢者である。 ・(2) これまでのきんちゃんバスの利用について。これまでいきんちゃんバスを利用したことが「ない」と回答した新たな利用者は141人(約1割)となっている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・(3)利用目的は、「買い物」が最も高く、次いで「公共施設への用事・利用」「通院」の順になっており、住民アンケート調査と同様の傾向となっている。 ・(4)利用バス停について。利用の多かった乗車バス停は「イオンタウン」の利用が最も多く、次いで「弥富市役所」「近鉄弥富駅南口」の順に多くなっている。 ・利用の多かった降車バス停は「近鉄弥富駅南口」が他のバス停に比べて突出して多くなっており、次いで「海南病院」「弥富市役所」の順となっている。 <p>3. きんちゃんバスの利用状況の推移について。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の推移を見ると、昨年度よりも多いが同じような傾向で推移している。さらに、2月は大きく増加している。 ・北部・東部ルートでは、1月・2月ともに昨年度（平成23年度）に比べて多くなっている。 ・南部ルートでは、1月は平成23年度よりも少ないが、2月は増加に転じ昨年度よりも多くなっている。 ・以上をふまえて、新たな利用者を生み、2月には大きく利用者が増えるなど無料お試し乗車券により一定の効果が確認することができたと考えている。
議長 (山崎先生)	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1、無料お試し乗車券配布結果について説明いただいた。使ったことがないと乗る気になれないという方々の利用を喚起するためには、非常に有効な手法であったと思う。 ・委員より意見、質問があれば出していただきたい。
館 委員 (福寿会)	<ul style="list-style-type: none"> ・利用目的は買い物が約3割、公共施設利用が4割で、利用状況ではどのルートも2月が多くなっている。利用者は60代、70代である。私は、寒い時期だからこのような結果になったかと思う。また確定申告の時期で、市役所の駐車場が狭いことも関係あると思う。このような分析上、参考になることがあれば聞かせていただきたい。
事務局 (伊藤)	<ul style="list-style-type: none"> ・確定申告が関係したかどうかは分析していないのでわからないが、無料お試し乗車券の配布枚数と利用伸び率が相関しているので、無料乗車券が利用向上につながったと考えられる。 ・現在75歳以上の方は無料なので、無料乗車券は使用されていない。そのため全体の傾向が見えてこない点が、このデータの問題点と思っている。 ・「ひので保育所」や「喫茶ゴールド」、「新田川平公民館」など、従来あまり乗車のなかったバス停で、利用が伸びている傾向がある。 ・一番の目的として買い物があるが、「イオンタウン」での乗車、降車がともに多かったのも、新しい層にバスを利用していただいた事がうかがえる。詳しい分析はまだ行っていないが、現状では以上の事が考えられる。
佐藤委員 (議会議長)	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が60代、70代で過半数を占めている。小中高生などの10代は免許証をもちろん持っていないが、70代で免許証を返納した方の利用割合のデータは取っていないのか。
事務局 (伊藤)	<ul style="list-style-type: none"> ・今回は無料お試し乗車券の利用者という限られた方のアンケートで、設問も4つだけである。今ご指摘の70代で免許証を返納した方の利用割合は、

	今回のアンケートでは読み取れない。また来年度の調査で分析したい。
丸山委員 (公募委員)	・「(2) これまでのきんちゃんバスの利用について」。これまで利用した事がない人が10%で、これを多いと見るか少ないと見るかよくわからないが、これから新たな利用者を開拓していくのであれば、かなりのアイデアを出さないといけないと思うが、いかがだろうか。
事務局 (伊藤)	・合計4万8千枚の無料お試し乗車券を発行して、結果として1,326枚の利用だった。これはそれ程多くはないと思う。無料乗車券の利用者の多くは従来からバスを利用していた方達だと思う。しかし、全体の1割で今まで利用したことのない人が利用したというのは、決して少ない数ではないと私は感じている。今後の利用促進については、来年度の事業計画で説明する。
議長 (山崎先生)	<ul style="list-style-type: none"> ・データの見方は、なかなか難しい。乗車券が3枚あるので、2枚目、3枚目を利用する時は、「初めての乗車」ではなくなる。そう考えると、今回初めて利用した人の割合は、10%以上にはなると思う。141人は、確実に今まで利用した事がなかった方だと思う。課長が言うとおおり、ある程度の成果が得られたと感じる。 ・今回は、乗車券に付随した簡単なアンケートだったので深い分析は困難であり、また来年度以降、調査をしていただきたい。 ・次の議題、(2) 平成24年度弥富市地域公共交通活性化協議会事業計画及び予算案について、事務局より説明していただく。
事務局 (横江)	<p>○資料2説明 平成24年度弥富市地域公共交通活性化協議会 事業計画(案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度は、国の地域公共交通確保維持改善事業という補助事業の中で、弥富市コミュニティバスの運行に関しては「地域内フィーダー系統確保維持事業」を、生活交通ネットワーク計画策定のために必要な調査、検討に関しては「地域公共交通調査事業」を申請し活用して事業を実施する予定である。 <p>1. 弥富市コミュニティバス運行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度の運行は、今年度の検証結果を基に設定した新ダイヤによる運行を平成24年4月1日より開始する。 <p>2. 運行の検証、改善方策の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度と同様に、「利用者実態調査」や「モニタリング調査」等の必要な調査により問題点・課題を抽出し、運行の検証及び改善方策の検討のための基礎資料とする。 ・また「周辺自治体の公共交通との連携」の検討や、新たに「運行手法の改善」としてデマンド交通など、新たな運行手法の検討も含めた運行手法の改善案の検討も行う。 <p>3. 利用促進策の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「改正時刻表の配布」に関しては、平成24年4月1日からの本格運行における新ルート・ダイヤに基づき作成した時刻表を平成24年3月中旬頃に市内各世帯に配布した。 ・「利用者負担軽減策の実施」に関しましては、平成23年度から導入して

	<p>いるシルバーパスや定期券、回数券の販売を継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「利用促進策の検討・実施」に関しましては、平成 23 年度から実施しているサイクル&バスライド駐輪場設置を継続する。また、その他にも「お試し乗車券配布」「利用促進イベントの実施」「市広報・HPを活用した周知活動の実施」等といった施策についても実施を検討する。 <p>4. 生活交通ネットワーク計画の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H21 年度に策定した連携計画に掲げられた目標を達成するために、ここまでの検討結果を踏まえ生活交通ネットワーク計画を策定する。 <p>5. 協議会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算・決算、運行の検証や改善方策の検討結果等に基づく次年度事業計画の承認等のため協議会を開催する。 ・協議会の開催と作業の概ねのスケジュールを 2 ページ目に示している。協議会は計 4 回を予定しており、作業の進捗にあわせ、適宜開催していく。 <p>○資料 3 説明 平成 24 年度弥富市地域公共交通活性化協議会 予算（案）</p>
議長 (山崎先生)	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度の事業計画、予算案について説明いただいた。 ・委員より意見、質問があれば出していただきたい。
長崎委員 (バス協会)	<ul style="list-style-type: none"> ・乗車人員調査はどういうものか。
事務局 (伊藤)	<ul style="list-style-type: none"> ・全便で、各バス停ごとの乗車人数を調査している。降車は、特定の日に限って調査した。
議長 (山崎先生)	<ul style="list-style-type: none"> ・乗車人員は、普段から事業者がとっているデータがある。降車は、普段データを取っていないので調査したということである。これはOD調査と併せてということだと思う。
事務局 (玉野 山中)	<ul style="list-style-type: none"> ・補足させていただく。 ・この調査は平成23年度も同様の調査を行っている。乗車人員はバス停での乗車人数で、運行事業者さんが毎日調査しているものである。降車人数は、安全上、また運転手さんの負担でもあり、毎日データをとる事は困難である。降車は先ほどのアンケート調査でも、弥富駅での降車が非常に多いことがわかるが、これは乗車だけの調査ではわからなものである。それで降車についても実態を把握するために補足的に調査を行った。 ・OD調査との違いであるが、OD調査はその人がどこで乗って、どこで降りたかと、一人の動きを把握するものである。ここでの乗車、降車調査は、そのバス停での乗車人数と降車人数だけを数えたものである。OD調査は来年度デマンド運行など、新しい運行手法を検討する中で、追加調査を行う予定である。
議長 (山崎先生)	<ul style="list-style-type: none"> ・長崎さんが言われたのは、OD調査をやれば降車調査は必要ではないということなのでないのか。
事務局 (玉野 山中)	<ul style="list-style-type: none"> ・OD調査はさらに負担がかかる。一人を追いかけていけないので、調査員が必要となる。調査期間はまだ未定であるが、今回の降車人員調査

	<p>よりもさらに短い期間になるものと思われる。</p>
議長 (山崎先生)	<ul style="list-style-type: none"> 降車人数調査は、1週間か2週間の調査が可能であるが、OD調査は1日だけとか、その程度になる。
事務局 (伊藤)	<ul style="list-style-type: none"> 母数の取り方について。降車人員調査を行う時は、併せて乗車人員調査を行っているので、運行全体の乗車密度が見えてくる。
長崎委員 (バス協会)	<ul style="list-style-type: none"> 例えば、ODは2日間だけやる。ほかに一定期間のデータを取るために乗降調査をやると、そういう意味合いなのか。
事務局 (伊藤)	<ul style="list-style-type: none"> そういうことである。
長崎委員 (バス協会)	<ul style="list-style-type: none"> 了解した。OD調査をやるなら、あえて乗降調査はやる必要がないと思ったので。
議長 (山崎先生)	<ul style="list-style-type: none"> ほかに意見はあるだろうか。
永山委員 (タクシー協会)	<ul style="list-style-type: none"> 財政面について教えていただきたい。 コミュニティバスは普通のバスとは目的の違いもあるので、一概には言えないが、全体では年間1億2千万円の支出で、受益者負担が約5%程度である。市町村のコミュニティバスはいろんなやり方があるが、平均すると受益者負担は20%ぐらいではないか。 それから弥富市として、このコミュニティバスを運行する上で財政的な負担に耐えられるのか。コスト面での改善の見通しはあるのか。
事務局 (伊藤)	<ul style="list-style-type: none"> 確かに5%の受益者負担は、大きいとはいえない。 乗車が無料である75歳以上の方の利用状況は把握していないが、その点も受益者負担率が低い要因と思われる。 4月の改正における費用負担の軽減については、全体では約3千万円程度、年間で削減できる見通しである。
議長 (山崎先生)	<ul style="list-style-type: none"> 愛知県の資料では、受益者負担の平均は10%程度と思われる。
代理 森島氏 (県交通対策課)	<ul style="list-style-type: none"> 一桁という所は少ないと思う。ちょっと考慮する必要があると思う。
議長 (山崎先生)	<ul style="list-style-type: none"> もともと弥富市のバスは福祉バスで、無料だったこともある。そのあたり、市としての考え方もあるので、一概に言えないと思う。
服部委員 (区長会)	<ul style="list-style-type: none"> 予算を見て、あらためて市の支出が多いと思っている。 南部ルートの人にとってみれば、高齢者、子供達にとっては貴重な交通手段であると感じているので、何とぞ続けていただきたい。 国庫補助金がもう少し増えないかという思いがする。 いろいろ見直しして今後調査の上、改善していただきたい。よろしく願います。
事務局 (伊藤)	<ul style="list-style-type: none"> 国庫補助については、今日は運輸局さんもみえているのでお話がうかがえると思う。 基本的にここを出している800万円は、調査事業に対する補助金である。運行については申請を行うが、交通不便地域の認定は非常に難しいという

	話もうかがっているのですが、今回の予算には計上していない。
代理 小出氏 (中部運輸局)	<ul style="list-style-type: none"> ・今事務局からお話があったとおり、800万は運行費の支援ではなく、24年度の調査事業費の補助である。これは予定であり、まだ採択されたわけではない。 ・運行費についても事務局が言ったとおりで、三重交通さんと内容を詰めていただいて、ネットワーク計画という補助をもらうための計画をこの協議会で作成、承認していただいて、国に6月末までに提出していただくというスケジュールで動いていただいている。ここには出ていない運行費の支援も予定はさせていただいている。 ・今の制度上では、田舎ほど多くの補助が出るようになっている。こういった名古屋近隣地域は中山間地域とは違い、補助を出すには厳しいものがある。事務局でがんばっていただいて、先ほど「交通不便地域の指定」という言葉があったが、指定地域を広げれば広げるほど対象人口が増えて、その対象人口が増えると自治体さんに出す補助金の額が増えるので、そのあたりは事務局と調整して、市の意向に沿ってなるべくたくさんの方の支援ができるよう協力したいと考えている。
佐藤委員 (議会議長)	<ul style="list-style-type: none"> ・今、弥富市で5%のお金が集まっているという話だったが、他の市町村は1割から2割ということで、単純に考えて利用者が倍になれば1割に届くという計算でいいのか。
事務局 (伊藤)	<ul style="list-style-type: none"> ・バスを利用していただく年齢層に問題がある。75歳以上の方にたくさん使っていただいても、運賃収入は上がらない。 ・当初の計画では、通勤・通学の利用を考えていた。現状ではなかなか通勤・通学には使っていただけていない。福祉目的以外の利用が増えれば、運賃収入の増につながる。単純に利用者が倍になれば、収入が倍になるとは考えられない。利用される年齢層との兼ね合いがあるので、シミュレーションが必要かと思う。
佐藤委員 (議会議長)	<ul style="list-style-type: none"> ・ということは、今、料金を払って利用している方が倍になれば、2割に近くなるという計算でいいのか。
事務局 (伊藤)	<ul style="list-style-type: none"> ・そういうことである。
議長 (山崎先生)	<ul style="list-style-type: none"> ・広告収入についてはどうか。
事務局 (伊藤)	<ul style="list-style-type: none"> ・現状、なかなか難しい。昨年度は、バス停に1件の広告を出しただけである。もっと親しみのあるコミュニティバスになれば、広告収入も得られるとは思いますが、現状は難しいところがある。
館 委員 (福寿会)	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば名古屋の地下鉄に乗ると、車内放送で「〇〇高等学校はここで降りると便利です」という放送が入る。あるいはバス停に、「ここから東へ〇〇mで〇〇」というような広告が目につく。こういう広告は、法律上、何かあるのか。
事務局 (伊藤)	<ul style="list-style-type: none"> ・不勉強で、法律云々の話はわからないが、現実には、地下鉄やバス停にそういった広告があるので、問題はないと思う。名古屋の地下鉄や市バスのよ

	うに非常に多くの利用者があると宣伝効果もあると思うが、なかなか弥富市の現在のバス利用者の数から考えると、難しい面もあると思う。検討課題の一つにさせていただきたい。
館 委員 (福寿会)	・例えば、イオンタウンの利用が非常に多い。イオンタウンさんが広告を入れたら、影響はあると思う。車内放送で、「明日のイオンタウンのお知らせ」などして、イオンタウンからお金をいただくことはできないだろうか。
議長 (山崎先生)	・いろいろな所でバスは走っているが、地元の商店街が協賛金の形でお金を出すとか、広告を出す例は多い。しかしイオンタウンさんのような大規模な店舗の事例はない。イオンタウンさんから協賛金をもらえるといいと思うが、そういう運賃以外の収入を確保していくことも、これから検討を重ねていただきたいと思います。 ・ほかに意見はないだろうか。 ・それでは、来年度の事業計画と予算案についてご審議いただきたい。平成24年度弥富市地域公共交通活性化協議会事業計画案、平成24年度弥富市地域公共交通活性化協議会予算案を承認いただけるだろうか。
各委員	(拍手をもって承認)
議長 (山崎先生)	・異議なしということで、承認された。 ・それではこの事業計画、予算に基づいて来年度、取り組んでいただきたい。 ・次に、議題(3)その他について、事務局から何かあるだろうか。
事務局 (横江)	・きんちゃんバスの利用促進活動について。参考資料としてやとみ春まつりのパンフレットがあるが、4月8日のやとみ春まつりにおいて、きんちゃんバスのPR・啓発活動を実施する予定である。
議長 (山崎先生)	・昨年も同じ企画をしていたが、震災でイベントが中止された。 ・これを機会に、子供達がバスに親しんでくれると良い。 ・以上で、議題はすべて終了したが、何か連絡事項等あるだろうか。 ・今年度最後である。最後に市長から挨拶をいただきたい。
服部市長	・市長挨拶
議長 (山崎先生)	・次回、平成24年度の第1回協議会は6月頃を予定している。日程が決まり次第、事務局からご案内するので、よろしくお願ひしたい。 ・以上で第4回弥富市地域公共交通活性化協議会を終了する。今後ともご協力をお願いしたい。
	以上